

PRIMULA CUNEIFORIA BULLETIN

primula

プリムラ山の会

90

Contents

クーロワール・・・・・・・・・・・・・・・・・・	002
In A Shot (岡 孝雄)・・・・・・・・・・・・・・・・	003
90 号のお題 素敵なテン場。・・・・・・・・	004
霧積温泉・春日溪谷と湯川溪谷アイスクライミング・佐藤 正俊	005
根子岳山スキー 佐藤 正俊・・・・・・・・・・	007
子連れハイク (16 ヶ月～18 ヶ月)・・・・・・・・市瀬 江利子	008
積雪期のマイナールートも楽しいワン U ^ε U その 11	
～ハヶ岳阿弥陀岳西稜の巻～・・・・・・・・初鹿 裕康	010
コマノカミの頭北尾根・・・・・・・・・・	012
平 真里	
積雪期のマイナールートも楽しいワン U ^ε U その 12	
～コマノカミの頭北尾根から南西尾根下降の巻～・・初鹿 裕康	014
ハヶ岳天狗尾根、その 1 敗退、その 2 再挑戦・・・・・・・・佐藤 正俊	016
赤岳・天狗尾根・・・・・・・・・・・・・・・・	019
平 真里	
今シーズンの山スキー (前編)・・・・・・・・北原 浩平	021
なほみさんのいつまでやってんだクライミング日記	
もはや病み上がりではない(2)・・・・・・・・水野 奈保美	025
山行一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・	027
編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・	028

クローワール Couloir

少しまわり道

私が山を始めたのは 30 才を過ぎてから、遅い方ではないか？

ハイキングから徐々に小屋泊の縦走など春、夏、秋と（今でいう山ガール？）知識も大した装備もなく今考えれば無謀な単独山行だったのではないか。当然、雪山などはとんでもないと思っていたし、近づいてはならない恐ろしい神聖なところと崇めていたものである。

しかし、そうこうしているうちに山を通じて知り合いや友人ができ、テント泊や雪山へと次第にのめり込んで行った。また、一つずつ装備を揃えていくのも楽しみだったのです。

どちらかと云うと何事にも飽きっぽい性格で若いころからいわゆる趣味といわれる諸事を遍歴してきたが、山を始めてからは他に目移りすることもなく今もなぜか続けられている。未だに山に関しては鮮度が落ちることがないのです。

重い荷物を担ぎひたすら歩き続ける、傍から見ればなんと単調なこと、何が面白いのかと訝しむ御仁も沢山いらっしやるだろう。が、そんなことはない。少なくとも私には何時も何かを与えてくれ、感動をもたせてくれるのが山であるような気がするのです。

しかし、そんな風に順調であったはずの山修行でありましたが、一年半ほど前に左膝の怪我に見舞われた。あーこれで当分は山へ行くことが出来ない。毎週日曜日、心にポツカリと穴が空いてしまった。メールで流れる皆の山行計画をながめてはため息をつく。さみしい気持ちとあせりが交差する。

しかし、嘆いても仕方ないではないか！

人生は長い、誰でも仕事や家庭の都合で止む無く山から離れることがあるだろう。

自ら山と縁を切る人もいるだろう。どの位の人たちが再び山に戻ってくるのか？

そして幸運にもなんとか私は復帰することができた。

そう、山に行けない間に思ったこと、会に入り今までに様々なスタイルの山行を経験させてもらってきたが、自分は一体なにがしたいのかと…。

そういえば初めてプリムラの例会を見学に訪れた時にもどんな山行がしたいのかと質問されたっけ。

年齢、体力、技量、限られた時間。

難しく考える事はない、自分は山が好き、これからも続けるだろう。ガムシャラになる必要はないのではないかな。やはり、細く、長くいつまでもお付き合いして行きたいのです。

In A Shot

by Takao Oka



撮影年月日 2013.01.30

氷間から望む・日光雲龍溪谷

那須岳の撮影の後、雲龍溪谷を訪れるのが此のところの常である。今冬の寒気は厳しく溪谷の氷柱は見事に発達し、青氷の回廊を創りだしている。

中でも雲龍滝を正面から望む右岸のハングした岩場に掛かる大氷柱は近年にない様相を施している。

落氷の危険を感じながら氷柱の裏側に回り込むと、氷柱の間から大滝が望め、額縁効果ともいえる景観が得られる。薄青色の氷柱、暗い中でも光る氷床、日の光を白く反射する氷柱、完全結氷の大滝、青空と雲、暗い岩。題材が多過ぎるくらいだ。

ワイドレンズを使用し、大氷柱の存在感をだし大滝とのバランスを図るポジションを探すが、三脚の足が滑ってしまう。苦労するが何とか固定できた。露出を変えボ

ジションを変え何カットも撮影する。でも満足いくものはいつもの事だが少ない。レンズのいたずら効果で、実感よりも迫力のあるカットを手中にした。

溪谷は深く南面を向いているため、陽射し時間が限られ撮影チャンスは早朝の出発が必要だ。このことに気付いたのは2回目の撮影だった。改めてロケハンの必要が解った。

ガイド付きスノーハイクの一行が多く訪れるが、片道2時間の林道のスノーシュー歩き。現地滞在1時間程。ヘルメットを被ってはいるが、氷の落下が予想される地点での仲良し話。どうなっているのだろう？でも皆楽しそうだ。

素敵なテン場。

私の印象に残るテント場は、4年前の沢登りで行った魚野川が思い出としてある。テント場は川に近く、何かと便利そのものだ。現地食糧調達として、岩魚が面白いように釣れ、釣る楽しさと、美味しく食することができたのは、この上なく幸せであった。(M. Y.)

雪の前三ツ頭。天女山から権現岳へ行く途上、樹林帯を抜け急登をおえると、目前に南アルプス。正面に日が落ちてゆくのを眺め、夜は甲府盆地の夜景が広がる。でも、あまりに寒くて、テントから顔だけだして写真撮影。(M. T.)

キャンプ場がいいなら、Joshua TreeのHidden Valleyキャンプ場。荒野の岩塔&ボルダ郡に囲まれ水もないけど、ものすごくゆる〜い感じが最高。次点Yosemiteのキャンプ4(とクライマーには呼ばれているが、サニーサイトキャンプ場が正式名)、侍浜(岩手)、三倉(広島)、廻り目平(小川山)と続く。(N.M.)

石部ひなつけ

山登り以前の時代は、3人の子連れ+わんこの6人でよく海辺のキャンプに出かけた。暑いけど自由度が高いキャンプは楽しい。西伊豆の松崎の南に3つの美しい海岸、岩地、石部、雲見の集落がある。そこには波もなく美しい入江と無料で自由に入れる露天風呂がある。その中でも一押しのテン場は、石部のひなつけキャンプ場。ガイド本には載っていないローカルで素敵なところ。偶然、現地で見つけたのだが、常連となり毎年、訪れた。海岸から10mほどの高台にテントを張って、のんびりすれば海の向こうに富士山が眺められる。(K. K.)

沢を抜けてたどり着いた某湿原。綺麗な水が流れてとても美しかった。

五龍遠見尾根。鹿島槍の北壁を眺めながらの春の宴会は素敵。(H. H.)

もう一度泊まってみたいと思うのは、昨年錫杖岳に登りに行った時に泊まった錫杖岩舎かな。今まで、横尾の岩小屋や唐沢岳幕岩の大町の宿、奥鐘山西壁の対岸の岩小屋などに泊まったが、ここは、天井も高く、テントを張っても余裕があり。水は目の前から取れ、焚き火もできる。多少の雨ならテントは、濡れる事もない。又錫杖岳に行く事があれば泊まってみたい。(H. S.)

何度も行きたいと思うのは、やっぱり雪の遠見尾根。テン場から見える鹿島槍ヶ岳の北面と双耳峰が最高の景色。まだ山を始めてすぐの頃、大坪先生が、この北面を見ながら用を足せる、素晴らしいトイレを掘ってくれた。楽しかったなあ。(E. I.)

涸沢や剣沢はビールもあって好きなテン場ですが、もう昔の事は思い出せないので、最近、仮泊した道の駅を紹介します。

まず「道の駅安曇野松川」人目に付かない芝生のフカフカなテン場で、鹿島槍が望めます。

次は「道の駅にらさき」ここも川沿いに芝生があり、朝焼けの八ヶ岳と甲斐駒、鳳凰三山は絶景でした。(M. S.)

霧 積温泉・春日溪谷と湯川溪谷アイスクライミング

佐藤 正俊



霧積、Kさん

その1:霧積温泉・春日溪谷アイスクライミング

日程:2012年12月23日(日)~24日(月)

山域:西上州・霧積

メンバー:小堀、小田、佐藤ほか1

〔行程〕

23日:6:00高円寺→9:00霧積温泉アイスクライミング、
民宿白石荘泊

24日:10:30林道終点→12:30春日溪谷アイスクライミング、
入浴、帰京

今回は4人で、豪華民宿、一泊二日のアイスクライミングに出かける事となった。今シーズン初めてのアイスなので入念にアイゼンとクオークの刃先を研ぎ、喜び勇んで出発したが、いきなり新宿駅の私の目の前で電車と人が接触する人身事故が発生する。幸い軽症で30分弱で中央線が復旧し、時間ギリギリでの高円寺駅到着となった。

全員集合後、コンビニで食糧を調達し、Kさんの車に同乗して高円寺を出発。関越経由で妙義山の奇岩を眺め3時間程で霧積温泉に到着する。気温が高く滝の結氷具合が気になるが、10分程歩いて温泉裏の滝に着くと何とか登れそうな状態だ。

早速トップロープをセットし、アイスクライミングを開始する。左側と奥の2面の氷瀑で各自2~3回ずつ練習し、Kさんや小田ちゃんも段々登り方が安定してくる。傾斜がやや緩い奥の水ではアイスクリューにクイックドロウを残置して、クリップしながらの登攀も練習する。結氷は甘いが暖かいのがとても嬉しい。我々以外に神津牧場から転進してきた2パーティも加わり、交互に場所を変えながらのク

ライミング練習となる。午後3時頃にはクライミングを切上げ、中軽井沢の民宿「白石荘」(1泊2食で7000円弱)に転進し、貸切状態の快適な一夜を過ごす。

翌日はまだ滝が凍っていない神津牧場を諦め、蓼科山中腹の春日溪谷を目指す。春日温泉の先で車を降り、膝下位までの雪の林道を約2時間登り、ようやく12時半過ぎに春日溪谷に到着する。天気は良いが陽が当たらず、標高も高いため結構な寒さだ。そのため氷は硬く滝の結氷状態は申し分ない。その上ほかのパーティは誰もおらず貸切状態である。まあアプローチも長いので当然かもしれないが…。

ともあれ正面の滝の左右にロープを2本セットし、二組に分かれて練習を開始する。交互に登攀とビレーをするのと休んでいる間が無い。後で聞くと、若い小田ちゃんはずっと登りたかったようだが、おじさん達3人組は手足もかじかんで早々に温泉が恋しくなり、3時前には店仕舞いとなる。車に戻り春日温泉に入浴し、民宿の食事と炬燵部屋の居心地の良さ、そして今シーズン初めてのアイスクライミングの余韻に浸りながら、満ち足りた気分で帰京する。

その2:湯川溪谷アイスクライミング

日程:2013年1月20日(日)

山域:湯川・八ヶ岳・春日溪谷

メンバー:佐藤ほか6

〔行程〕

19日:22:00 Iさんの車で新宿駅西口発→0:30道の駅にさきで仮眠



霧積、堀さん

20日:10:00湯川溪谷アイスクライミング→17:00燈明の湯入浴後、帰京

今回は救助隊のメンバー6人と八ヶ岳東面の湯川溪谷にアイスクライミングに行く事となった。年末に八ヶ岳裏同心ルンゼを登ったので、今シーズン3回目のアイスになるが、あまり上達していない。今回は少しでも場数を踏み、是非Uさん達の技術も参考に上手になりたいと考えていた。

土曜の晩、午後10時に新宿駅西口でIさんの車に拾ってもらい、零時半過ぎに道の駅「にらさき」に到着する。土曜日は日帰り山スキーで根子岳に行ってきたので、結構な疲労感もあり、あまりの強行軍にIさんにも呆れられてしまう。その割にはIさんの話は止むことが無く、結局2時近くまで飲んで就寝する(これが一番疲れました、ゲロゲロ)。

翌朝は鳳凰三山、甲斐駒ヶ岳、八ヶ岳の絶景の朝焼けで目覚め、朝9時には湯川溪谷林道の駐車スペースで前日から民泊泊のUさんグループと合流し、30分程のアプローチで湯川溪谷に到着する。

氷瀑周辺は撮影やら日帰りのハイカーやらも含め千客万来で、既に5～6グループがロープを垂らしている。我々7名もUさんのリードでトップロープをセットし、3グループに分かれて登り始める。長野から一人で来ていた若者にも声を掛け、総勢8名の賑やかなパーティとなった。最終的に5本のルートを合計10回登り、内5本は登った後にそのままクライムダウンし、その内の2回はリード練習でトップロープでアイスクリューを3本捻じ込みながら登攀する。アイスクリューの捻じ込みが一番つらく難しい。



春日溪谷、小田

とても良いアイス練習となり、終わり頃には腕がパンパンに張ってしまった。途中で既に頑張り過ぎていたため、最後のギャップを越えてその上のツララに乗移る課題を直登出来ずに左に逃げてしまった事が唯一心残りだが、想定以上に頑張る事が出来たと思う。特にUさんの絶妙なボディバランスや優しく繊細なパイルの打込み、アイゼンの蹴り込みが強く印象に残った。

こうして午前10時から午後4時前までタップリとアイスクライミングを堪能し、店仕舞いの後、5時過ぎには「燈明の湯」に入浴する。その後、2台の車で国道254号線の内山峠を経由し、下仁田の中華料理店「南国」でお腹一杯夕食を食べ、9時過ぎにIさんに送られて練馬駅に到着する。Iさん本当にお世話になりました。m(_ _)m。

さすがに疲れ果て、重荷を背負って歩くのが嫌だったので、軟弱にも練馬駅からタクシー(約1400円)で帰宅する。2日間お天気も良く、山スキーとアイスクライミングでお腹一杯の週末であった。



湯川溪谷

根子岳山スキー

佐藤 正俊

日程:2013年1月19日(土)

山域:菅平高原

メンバー:初鹿、山里、市瀬、佐藤

[行程]

19日:6:00市瀬車で西武柳沢発

→10:00奥ダボススキー場→

根子岳往復→13:30奥ダボススキー場→帰京

1. リフト終点から根子岳往復

今回は今シーズン2度目の山スキー。前回の神楽峰ではスキー靴の足首ロックを忘れて、散々だったので、何としてもこのミスだけはしないように注意した。また、市瀬さんとも初めての山行だ。

19日の土曜の朝、市瀬車で西武柳沢を出発し、菅平の奥ダボススキー場を目指す。天気は快晴だがこの時期の関越はいつもスキー車で渋滞するそう。それでも10時頃には奥ダボススキー場に到着し、リフト代1人500円でリフト終点に到着する。

ここから3000円を払えば「スノーキャット」という雪上車で座ったまま根子岳頂上に運んでくれる。ほとんどのスキー客は雪上車利用だが、当然我々は、スキーシールを装着して黙々と登り始める。

根子岳の頂上からは雪煙が上がっており、下を振り返れば快晴のもと景色も良い。山頂付近の樹木は雪が付着して樹氷状態となっている。根子岳の頂上には2時間少々で到着し小休止する。祠のある辺りは風が吹き抜

けてとても寒い。樹木に覆われた四阿山も堂々として立派な山容だ。

それぞれがシールを外して滑り始める。山頂直下は新雪の急斜面だが、その下の緩斜面はツアースキーヤー向けに整地されていて、わざわざルートを外さないと新雪は滑れない。しかも傾斜が緩いのでしばらく滑ると新雪の中ではスキーが止まってしまう。

途中の避難小屋を下見した後は整地されたコースを滑り降り、リフト終点からはゲレンデを一気に滑り降りる。滑降時間はわずか20分。スキー靴の足首を固定したお蔭か、今回はとりあえず普通に滑れた。

1時半にはスキー場を後にし、「さなだふれあい館(500円)」に入浴後、帰京する。

その晩から湯川溪谷のアイスクライミングに行くので、少し焦って練馬高野台で下車する際に、スキー袋を忘れてしまった。皆さんご迷惑をおかけしました。

機会があれば、また山スキーにお誘いください。



スノーキャット



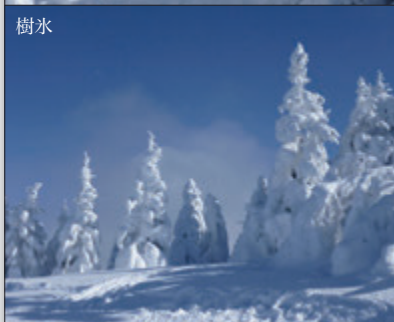
市瀬さん



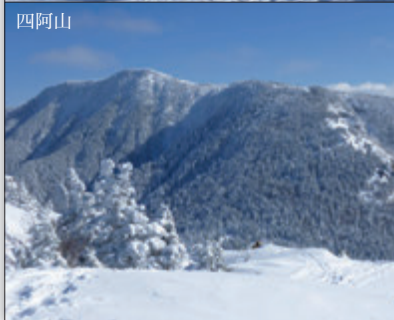
山ちゃん



初ちゃん



樹氷



四阿山

子連れハイク (16ヶ月~18ヶ月)



シダゴ山頂上で転びました

市瀬 江利子

冬山真っ只中ということもあり、子連れで行けたのは一山だけでした。
久しぶりに子供を置いて行った根子岳。
青空をバックの樹氷は、やっぱりいいですね。

2013年2月3日/シダゴ山(758m) 子連れハイクNo.12

メンバー:初鹿、市瀬、他3

コースタイム: 登り2時間弱、下り1時間

蛸梅祭りの真っ最中だったので、無料駐車場に車を止めることが出来ず、学校の校庭の臨時駐車場に車を止める。駐車場代500円。登り口のゲートまでは、麓の村落を登っていくが、かなりの急傾斜だ。子供はここを自分の足でどん

どん登って行き、もうこんなに歩けるのかと、改めてびっくりさせられた。おかげで、疲れたのか、登山道からは背負子におとなしく乗ってくれ一安心。杉林の中の登山道は、整備されているが、傾斜もそこそこあるので、汗をかきかき登っていく。頂上は広くて、お弁当を食べる台なども設置されていて、走り回る子供を連れて行くには丁度良い山でした。景色も360度見渡せます。



シダゴ山、だんご??

2013年1月18日／根子岳／山スキー

メンバー：初鹿、山里、佐藤、市瀬



ゲレンデ上部の登り始め。
雪上車が頂上付近まで通っているので、
ほぼゲレンデ状態です。



こんな景色を見ると、
雪山に来たって
感じがしていい。

山ちゃん。雪質は少し重くて滑り辛かったです。



佐藤さん。
もうすぐ頂上。



根子岳
頂上です。

積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U その11 ～八ヶ岳阿弥陀岳西稜の巻～

初鹿 裕康



北西稜が見えまーす

日程:2013年2月9日～11日

メンバー:初鹿、水野

【コースタイム】

2/9:晴 美濃戸口(11:03)---美濃戸(12:18)(12:40)---
B.P(15:17)2/10:晴 (8:16)---御小屋尾根(16:08)---阿弥陀岳
(16:58)---中岳のコル(17:25)---行者小屋(17:55)---
B.P(18:34)2/11:曇 (11:43)---美濃戸(12:38)(12:48)---美濃戸
口(13:30)

八ヶ岳西面のマイナールート、探していたらこんな立派な尾根が阿弥陀岳にあった。

前の日の夜、須玉の山小屋入り。どうせゆっくりだからと、始発から3本目のバスに乗る。バスは満員で1台増便。たぶんみんな赤岳鉱泉に入るのだろう。我々も当初、赤岳鉱泉とも考えていたが、かなり混んでいそうだし、阿弥陀の西稜なら行者小屋の近くまで登った方が取付が近いのであっさり、南沢から入ることにする。

赤岳鉱泉の登山道に比べ道は悪い。凍った結構いやな登りを過ぎ、南沢の大滝へのトレースを分けて、南沢を渡ったあたりのルンゼ状のところが、西稜の取付付近ではないだろうか、見当をつける。なるべく登山道から離れたところにテントを張ろうとするが、雪はズボズボでテントを張るのにも苦労をする。ささやかに宴会して就寝。

翌日、見事に寝坊をして出発が遅れる。わかんを着け出発。ルンゼ状の右側の尾根をラッセルしていく。雪はモナカ雪になっていて大変登りにくい。最初の草交じりの岩場は、わかんを

履いたまま水野が行くが、私は落ちたらいやなので、軽くロープを出してもら。ロープがあればなんてことなく登れる。まあ、アイゼンにすれば良いだけの話なのだが。

なるべく尾根を外さないように登っていくが、尾根上には草交じりの岩があつて、わかんだとかなり登りにくい。2個目の岩場は左側のルンゼ状のところを、雪を崩しながら木を掴んで強引に初鹿が突破。だんだん尾根は急になってくる。そして3つ目の岩場。

岩場が終わるとラッセルという繰り返しのので、ここからアイゼンとわかんの併用で登ることにする(久しぶり)。ダブルアックスを使って登っていけばなんてことはないが、傾斜は結構急である。このコースに戻るには懸垂下降するしかない。時間も結構押してきて、タイムリミットを何時にしようと思えるが、ここを登っていけば一般道に出るのだから、中岳のコルに暗くなる前に着けば、後はヘッデンでも大丈夫だろう。もう進むしかない。

左側が雪底になっている稜線を、モナカ雪に



水野へロへロ中 (1)



水野へロへロ中 (2)

もなかなか着かず、下りすぎたかなと思った頃にやっと到着。都合10時間強の行動でした。

明日はもう帰るだけと決めて、酒を飲んで寝る。夜中結構冷え込んだ。

翌日は朝方雪。山の上は天気が悪い。せっかく昨日作ったトレースも埋まってしまう。そしてまた

静寂のルートに戻る。朝10時頃でも零下12度。寒かった訳だ。

とっとと下り、美濃戸の小屋で水でも飲もうと思ったら水もすべて凍っていた。美濃戸口で入浴し(気持ちよかった)、茅野から各駅停車。駅弁とビールで楽しく帰ったのでした。

阿弥陀の西稜は草付きの岩場が何箇所もあり、思いっきり巻くことも出来ず、結構シビアだった。ダブルアックスとアイゼンで登れば、ロープはいらないが、高度感があるのでミスは許されない。今回は雪がモナカ状で、ラッセルしても固まらない感じで、非常に時間がかかってしまったが、時期を選べばもう少し短時間で阿弥陀岳に登れるだろう。中央稜なんかより面白いかもしれない。今回未知のルートだったが、取付も間違えずルートもほぼ完璧にトレースが出来たので非常に満足している。北西稜もぼちちりと見えて、景色もいい所です。このルートは状況によって、かなりイメージが違うルートになると思う。2月のこの時期は結構しんどいかも。

(キャプション：水野)

悩ませられながら、登っていく。ラッセルしてもラッセルしても、なかなか稜線は近づいてこない。阿弥陀岳の頂上が見え、中岳に向かう登山道には、結構大きく人が見える。もうすぐだろう。水野にラッセルを代わってもらおうと思うが、水野もへロへロ。「このやろー」とか「くそー」とか大きな声を出しながら(決して水野に言っているのではない)、気合でラッセルしていく。やっとやっとやっとのことで御小屋尾根と合流。

ここでわかんをはずして、最後の登りにかかる。トレースもあってアスファルト道だ。そして阿弥陀岳山頂。赤岳がオレンジに染まって美しい。阿弥陀の下りは慎重に。夕暮れで視界が悪いので、普段ならなんて事のないところが、高さが読めず非常に怖く感じる。最後はバックステップで中岳コルへ。ここからは禁断の登山道を行者小屋へ。

昔はもっとトレースがあったが最近、雪崩のこともあってか、あまり歩かれていない様子。でも行者小屋へはあっという間に到着。行者のテン場は結構混んだ。ここからはヘッデンのお世話になってB.Pへ向かう。歩いても歩いて

コマノカミの頭北尾根

平 真里

日程:2013年3月9日~10日

山域:上越・コマノカミの頭北尾根

メンバー:初鹿、平

3月9日 晴れ

10:00大源太山登山口--11:40 843mピーク---
17:30コマノカミの頭山頂

9時前に越後湯沢駅で待ち合わせ。そこからタクシーで奥の休暇村まで行けたのは良いが、登山口には行き過ぎ。車道を行きつ戻りつして登り口を探しているうちに、10時近くになってしまった。

登り口は大源太山登山口を示す道標のあるところ。すぐにわかんをつける。予想通り、雪は湿って重たい。左手に沢をみながらトレースに沿って進む。地形図を見ながら、林道が深く曲がるところで、尾根に取り付き、843mをめざす。急な坂を一気に登って尾根に乗った。

予想に反して頻繁にテープがある。さすがにトレースはないが、道は明らか。展望も開けている。尾根上から程なく843mにつくと、方向を変える。いったん鞍部に下りて、密な樹林の間を縫うように攀じ登る。

先の記録でロープを出したという1000m付近で、ハーネスをつける。持参したバイルも使ってみる。幸い、落ちて致命的な難所はなく、むしろ雪崩の方が心配。樹林が切れたすと、たち

まち視界が広がり、楽しい雪稜歩きになるが、雪庇も多い。左手に大源太山がカッコ良い。登らないのに、こちらの写真ばかり撮った。

山頂が間近になってきた。夕暮れは近い。足拍子からコマノカミへ続く稜線には歩いている人が見える。そろそろテントを張る時刻。今晚の宿にできる場所を探しながら歩くが、風が強い。もう少し頑張れば山頂に届く、というので、コウターイ！と言って、初鹿さんに先頭を譲りわたし、疲れた体に鞭打った。

もう日が暮れようという17時半に山頂到着。山頂から足拍子に向う道をちょっとだけ下り、適当に整地して、テントを張る。雪は水用にブロックにして入口に積んでおく。夕餉にして、水を作っていると、遠くに花火があがった。スキー場の明かりがまぶしい。風は生暖かく、外に出て景色を眺める。就寝21時前。

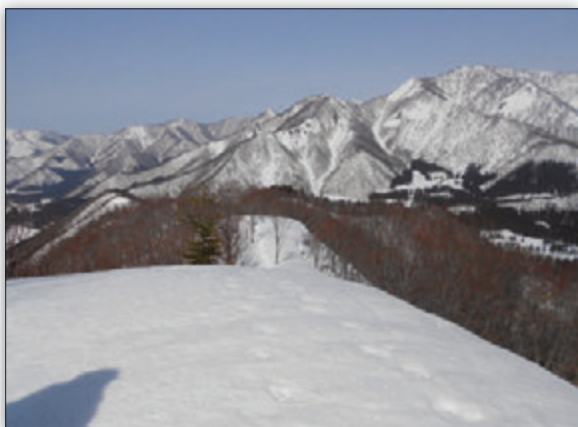
3月10日 晴れのち雪

6:30コマノカミの頭---08:20南西尾根---09:50
林道---11:30土樽駅

4時半に起床、6時半出発。珍しく2時間で出発できた。天気は下り坂のはずだが、まだ青空。こ



北尾根の穏やかな樹林



素敵な雪後が今回のテーマ

れから快適な稜線歩き、と期待するが、歩き出すと細い稜線は雪の割れ目だらけ。こわごわ足を踏み出して、気が休まる暇がない。景色は抜群なのだが。

南西尾根の下り口を捜しながら、細かいアップダウンを繰り返し歩く。ここぞ尾根、という地形が左手に現われるが、下りようがなくて通りすぎてしまう。ちょっと先まで行って、どうやって尾根に乗るか思案する。日が高くなならないうちに、と緩んだ雪面を引き返すようにトラバース。さらに登り返してようやく尾根に乗れた。振り返ると、稜線からの下降点は、一部雪が落ちた壁状になっていて、やはり下れなかっただろうと納得。安堵して、ブナ林の緩やかな尾

根を下る。これで、雪の踏み抜きさえなければ。

昨日に続き、気温は高く日差しは暖か。迷うようなところもなく、明るい樹林を下る。沢沿いになったと思ったら林道にぶつかった、10時前。もう楽勝、と思ったところが、やはり激しい踏み抜きで、なかなか進まない。雨がぱらぱら落ちてきたら、すぐに雪に変わり吹雪へ。土樽の駅に着いたのは12時前になっていた。

水上の温泉に寄って駅に戻れば、上越線が強風で止まっていた。振替輸送で上毛高原から新幹線で高崎、さらに普通列車に乗り継いで帰京。山の上でなくて良かったよ。



クレバスの稜線



南西尾根の下り

積雪期のマイナールートも楽しいワン U^ェ^U その 12

～コマノカミの頭北尾根から南西尾根下降の巻～

初鹿 裕康

日程:2013年3月9日～10日 メンバー:初鹿、平

【コースタイム】

3/9:晴 青少年旅行村(9:55)---843P(11:42)(11:54)---コマノカミの頭
B.P(17:35)3/10:晴/雨/吹雪(6:27)---南西尾根に乗る(8:13)---林道(9:47)---谷川
PA(10:38)(10:47)---土樽(11:46)

会の主流の人たちは八ヶ岳のメジャーな天狗尾根に行ってしまったので、亜流(?)の我々は上越のマイナールートへと向かうのであった。天気が心配だったが、土曜日の明け方までは雨が降るものの、そこから日曜日の午前中までは良さそうな気配である。この時期の上越新幹線は空いているかと思いきや、ネットで調べると意外と満席になっている列車が多い。自由席も混んでそうなので、金曜日に20%割引の指定席をゲット、しかもグリーン車である(まあ、ノーマル運賃より安いのでいいか)。大宮乗車の平ちゃんとは越後湯沢駅待ち合わせ。ちなみに平ちゃんの乗った自由席は通勤ラッシュの山手線並みに混んでいたそうだ(;一一)。

越後湯沢の駅の待合室でパッキング。タクシーでどこまで入ればいいか相談して、青少年旅行村までタクシーで行くことにする。タクシーの運転手の情報によると昨日の夜は大雨で大荒れだったらしい。あつという間に雪が溶けてしまったとのこと。その上例年より積雪は少ない。青少年旅行村まで行ったところ取付が分からず、地図を見ながら右往左往。結局大源太登山口方面まで戻って、やっと正規のルートに取付く。大源太の林道から843Pに直接突き上げる尾根を登り始めるが、雪が重いし、わかんを履いても沈む(泣)。なぜか青いテープがルート上に結構ある、実はメジャーなルートだったのか?登るにつれて雪も安定してきて、多少はラッセルしやすくなってくる。

843Pで大休止。それにしても暑い。気温は20度越えているか。雪崩が所々でどーんどーんと大きな音を立てて起きている。今回は快適な雪稜がテーマであるが、所々木々の周りが崩れ、地面が見えている個所も散見する。左側に雪庇が大きく張り出しているの、あまり左に寄らず、かといって樹林帯に入らず登っていく。雪の崩れかけたブッシュ帯は腕力勝負になる。アイゼンのほうが登りやすそうだったが、わかんのままなんとか登る。1000mを越えたあたりから尾根が細くなりそうだったので、一応三点セットを着けて行く。

ピッケルで被っている雪を崩しながら登ったり、ブッシュを無理やり押しのけて登ったりして行くうちに、やっと雪だけの素敵な雪稜となった。斜度もだいぶ出てくる。気温が高いので先行する平ちゃんの足元から、雪が転がりだし大きくなったスノーボールが、危うくあたりそうになる。危険なところも何とかこなして、結局ザイルは使わずに済んだ。

行けたら頂上直下のコルまでの予定だったが時間も押してきている。ふと上部をみると足拍子方面から登ってくる他パーティの姿。もう17時過ぎているのに(人のことは言えない)。コルに着いた所で風もちょっとあるし、あんまりいいテン場でもないの、頂上までの急登を30分くらい残業。頂上に着いた時には、陽が長くなったとはいえ、夕陽は沈んでいた。他パーティは頂上を越えた向こう側でテンパっている。我々は足拍子寄りにち



よっと下ったところでB.P.

時間があれば雪洞を掘るつもりで持ってきたスコップが活躍し、立派なテン場が出来上がる。明日の南西尾根はトレースあるかな？。夜中湯沢の街ではでは花火大会をやってみました。

翌日4時半起床6時半出発。今日は昼過ぎから雨らしいので、とっとと下りたい。前日のパーティはアイゼンで来ている模様なので、我々もアイゼンで行く。が、ちょっと歩いてこりゃ無理でしょ。わかに履き替え、仕切り直し。南西尾根下降点に向けて歩いて行く。左側は雪庇。この稜線の雪も崩れていて、なかなかスリリング。南西尾根の確認のために、左側を覗いて見るのは結構恐ろしい。

南西尾根の下降点らしきところのピークはトレースがなく、前夜のパーティは足拍子方面から縦走してきた模様。荷を置いてピークを左に回り込んで様子を見に行くが、どこまでが雪庇？？この雪のピークごと崩れても不思議はない。なかなかリスキーであるので、そのまま右に折れる稜線を足拍子方面のコルまでさらに下って大休止。

ここで大まかに進むルートを確認。ここから南西尾根のピークのかかなり下を右から巻くようにして尾根に乗ることにする。さすがに沢筋を下っ



ていくルートはこんな雪の状態では、ありえない(^_^;)。前日に落ちたらしいデブリの上をトラバースしながら、さらに落ちてきそうな雪崩に気を配りつつ、最後は尾根に登り返して南西尾根に乗る。ここでやっと安心。ここから見るピークは、登りでも直上していくのはロープなしじゃきついでしょって感じ。

おとといの大雨で雪面がパッキリ開いている。ここから先は沢に下りないよう、常に尾根の上を下っていくと林道に着く。天気はあつという間に崩れてきて雨が降り出す。途中から雪になり、やがて吹雪となった。「これは遭難日和ですね」と平ちゃん。何とか土樽の駅に着いて電車で水上へ。なんか、この先の上越線も止まっているらしい。とりあえず荷物を置いて暴風の中温泉へ向かう。温泉から戻ってきても風の影響で不通になっていたの、振り替え輸送で上毛高原から高崎まで新幹線で帰ったのでした(予定していた各駅停車より早く帰れたけどね)。

ずいぶん前に南西尾根はコマノカミ沢左岸尾根とか言う名前、簡単なスキーのルートの登路として岳人に載っていた。今回、後で読み返してみたが、やはり上部は状況によってはザイルが必要だと書いてありました。今回は非常に雪崩の危険を多く感じた山行でしたが(前日の大雨、高温、湿雪)、結構楽しめたルートでした。

八ヶ岳天狗尾根、その1 敗退、その2 再挑戦



ツルネの道標

佐藤 正俊

その1: 日程:2012年12月15日(土)~16日(日)

山域:八ヶ岳東面 メンバー:平、佐藤

[行程]15日:7:00大宮(新幹線)→10:05清里→10:45美しの森→13:20出合小屋→15:10 2100m地点でテント泊

16日:6:10テント→8:45カニのハサミ→9:20第1岩峰の左岩壁→16:45出合小屋→18:30美しの森→21:46大宮

その2: 日程:2013年3月9日(土)~10日(日)

山域:八ヶ岳東面 メンバー:小堀、北原、小田、佐藤

[行程]9日:6:00新宿西口→9:00美しの森→11:50出合小屋、テント泊

10日:3:30出合小屋→8:50大天狗→11:15ツルネ南峰→ツルネ東稜→12:35出合小屋→15:45美しの森→帰京

2012年12月15日(土)~16日(日)

その1: 天狗尾根第1岩峰で敗退の巻

今回は平ちゃんと天狗尾根に行く事とした。笹子トンネル崩落で中央道が不通のため新幹線利用で清里に。駅からタクシーで美しの森駐車場に到着。先行の3人組は旭岳東稜との事。トレースのお蔭で約2時間半で出合小屋。幸先良く朝からの雨も上がる。

一休みして赤石沢を渡り、右岸のルンゼから天狗尾根に取付く。トレースは無いものの、カモシカやイノシシの足跡が縦横無人に走り、午後2時過ぎには2100m地点でテント泊。夕食は

乾燥野菜たっぷりのカレーシチューで超満腹。

翌日は朝6時に出発する。快晴、無風の好条件の下、9時20分に第1岩峰(30m岩壁)に到着。セオリーは岩壁の基部をフィックスロープで右にトラバース後、ルンゼ登攀となるが、ロープは見当たらずテントを背負っての絶壁トラバースは相当リスクが高そう。それに比べ左側の「手強い岩壁(30m岩壁)」は登れそうに見えた。

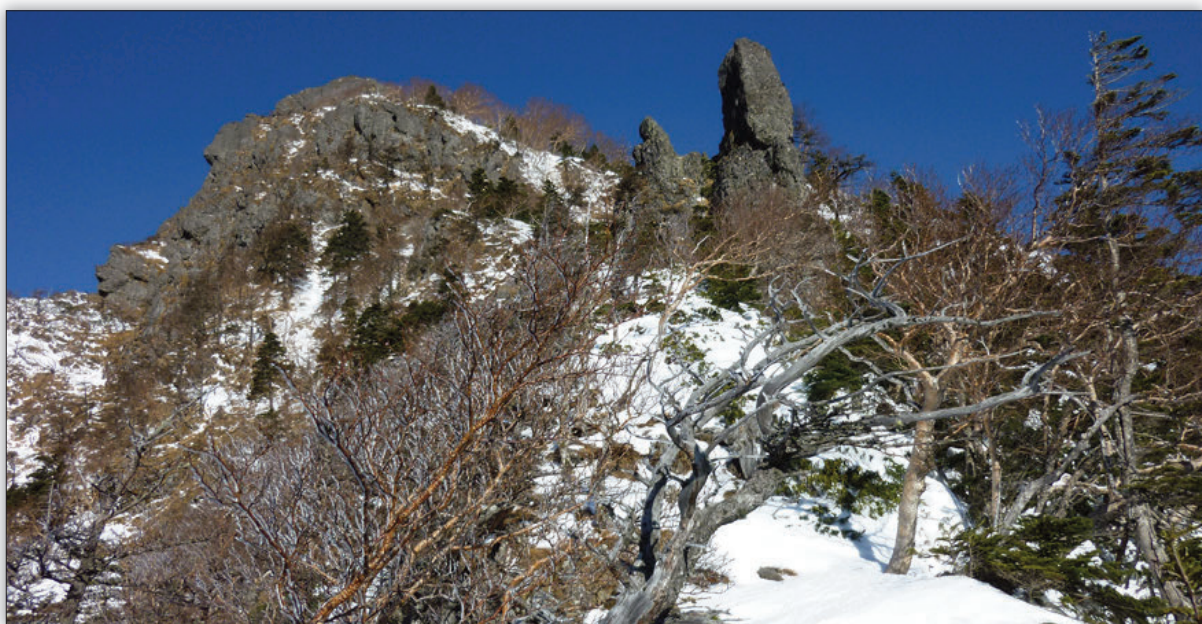
小考の結果左の壁に挑むこととし、左上して佐藤が木登りから岩壁上部に達し、チョックスストーンでビレーを取る。ピンなどは全く無いほぼ垂直の岩壁で、木登りから岩壁への乗り移り



旭岳東稜



12/16 カニのハサミ直下



12/16 カニのハサミと大1岩峰

が難しい。重いザックも木の枝に引掛り、結構厳しいクライミングだった。その上、両足をステミングしたままのビレーでふくらはぎに猛烈に負荷がかかる。

平ちゃんに早く登ってもらわないと足が持ちそうに無い。しかしながら再三の攻撃にも拘らず、どうも無理そうだ。最後はタイブロックとプルーシックでロープ登攀を試みるがそれでも登れず、とうとう平ちゃんもギブアップする。ビレーに使ったスリングを捨て縄に懸垂下降した時には、両足はとっくに限界を過ぎていた。平ちゃんを先頭にロープ確保で下降し、再度、岩壁基部のトラバースルートを確認するが、やはり相当難しそうに感じた。時間も正午に近いので撤退を決定する。

トボトボと天狗尾根を下り、美しの森に午後6時半に到着。タクシーを呼んで清里駅に着くと中央線経由では今日中に東京には着けないとの事。そこで、またまた大枚をはたいて超快適な佐久平から新幹線に乗り、再度の挑戦を約束する(デモやっぱ私の判断ミスでした。平ちゃん御免なさい。m(__ __)m)。

2013年3月9日(土)～10日(日)

その2:天狗尾根再挑戦の巻

前回の無念を晴らすため紆余曲折の末、小堀、小田、佐藤で計画を立て北さんが合流する。9日新宿駅から佐藤車に同乗し、朝9時、美しの森駐車場を元気に出発する。今日は快晴無風の素晴らしい天候だが、この時期にしては異常に暖かい。勝手知ったる出合小屋は千客万来のため水場の近くにテントを張り、天狗尾根の稜線まで下見に行く。

翌朝は暗闇の中3時半に出発する。佐藤を先頭に満天の星空の下、稜線をグングン登るが風がかなり強い。夜が明け始める午前6時頃にはハーネスを装着し、ロープを出して佐藤のリードと確保でカニのハサミ下部の岩壁を通過する。

最大の核心である第1岩壁基部のトラバースは、小堀、北原組が小堀のリードで先行し、佐藤、小田組が続く。小堀さんのトラバースをカモシカが至近距離からシゲシゲと見ていたのが印象的だ。ルンゼ後半は小田ちゃんもリードを試



3/9 第2岩峰

みる。アイスクライミングの成果かランニングビレーも2ヶ所取り、結構安定した登りっぷりだ。ビレー中に小さな氷片が佐藤の眉間に当り、大した事は無いと思ったがかなり出血してしまった。

第一岩壁を超えると突風状態となり、岩陰で行動食を摂る。天候も下り坂のようだ。佐藤を先頭に第2岩峰を越えると、大天狗、小天狗が姿を現す。風は益々強くなり最後の核心となる大天狗の基部は佐藤のリード、ロープ確保で全員通過する。

大天狗の基部を越えた所でクライミングロープを収納して出発するが、小堀組と50m程の距離がついてしまい、折からの強風とガスで見通しも全く効かなくなる。小天狗を越え誤って竜頭峰を赤岳方面に登るが、小堀さんが迎えに



3/9 第2岩峰の上部

来て事無きを得る。終わってみればカニのハサミから終了点まで3時間弱で、強風の悪条件を考えれば、かなり良いペースで抜けられた。その後は急傾斜を大キレットまで下り、ツルネ南峰に到着する。ツルネ南峰には「権現岳と出合小屋」への立派な道標がある。

下降路のツルネ東稜からは赤印も沢山あり道に迷う心配が無いのが有難い。佐藤の高度計で2110mの地点が北さんのGPSでは2300mだと言うので随分気圧が下がったのかと思ったが、直後に2040mのピークを越え、思ったより早く出合小屋に到着した。下降路ではGPSよりも高度計の方が正しかったようだ。

出合小屋に到着した直後に豪雨があり、テントと荷物を撤収して下り始める頃には大雪となった。そして午後3時過ぎに美しの森駐車場に到着した頃には晴天で、天狗尾根と赤岳山頂が良く見える程、天候が回復する。全く不思議なお天気の日だったが、無事天狗尾根に登ることが出来、早起きは三文の徳を実感する山行となった。



3/9 大天狗、小天狗

赤岳・天狗尾根

平 真里

日程:2013年3月16日~17日

山域:八ヶ岳・赤岳天狗尾根

メンバー:リーダー、平



岩峰群

天狗尾根の企画は3回目。途中で撤退したのは昨年12月、長年の宿題を片付けに。

3月16日 晴れ

美し森09:00---11:20出合小屋11:40---14:10幕(2,300m 付近)

前夜、家を出たのは23:30。清里の道の駅で泊まり、翌朝起きて、美し森駐車場を出たのは、9時前になっていた。天気は快晴。ところどころに雪が残る林道を歩く。花粉が飛んでいるようでしんどい。左手には、天女山が良くみえた。

2回ほど石伝いに川を渡ったりして、出合小屋に着いたのは、11時半に。誰もいないが、荷物がデポしてあった。ここに泊まって明日登る、という提案を事前にはしていたが、その願いも空しく、ひと休みしてアイゼンを着ける。赤岳沢に沿ってちょっと

歩き、急な尾根に取り付くと、トレースがある。樹林をぬって登り尾根にのる。寝不足と荷物が応えてペースはあがらない。

息をはずませて高度計を睨みながら登る。テントを張るなら、岩場に出る前。あと2時間あれば上まで抜けられる、という提案には猛反対し、疲れきって2,300mで幕。14時過ぎ、まだ日は高い。少しだけ上に、4人パーティがテントを張っていた。整地に精を出し、緩慢に片付けなどしていたら、すぐに夕暮れ。夕飯後は、水作りをして就寝。星が出ている。ラジオの天気予報も、明日の晴天を告げていた。

3月17日 晴れ

幕場06:30---稜線10:00---ツルネ11:45---出合小屋13:00--
-美し森15:30



問題の右トラバースを振り返る



岩峰の途中



大天狗へ向う

4時起床、なのに6時半出発なる。食事を供出して、テントだけになったザックが軽い。ハーネス、ヘルメットを着け、アイゼンを履いて出発。ちょっと前に出たばかりの、先行者を追うように登る。しばらくは樹林帯。

視界が開け、カニのはさみ付近は、岩をちょっと左によけてまわり、今度は少し右へ行行って岩場を登る。雪はわずかに残るのみ。久しぶりのアイゼンでの岩場歩きに動揺して、足場に迷う。時間をかけていたら、先行者の姿はすでに見えなくなっていた。

そして見覚えのある場所、30m岩壁の前に。前回、ここを左に行ってしまったから、行き詰まったのだった。が、先行者の姿はそちらに見える。リーダーに間違えたところだと申告して、右の様子を見にいつてもらう。確認できたところで、岩伝いにトラバース開始。前回、行けないと判断しただけあって、気持ちがひるむ。仕方なくこわごわトラバースし、安定した場所に出て、ルンゼを登る段になると、やっとロープが出た。リーダーが登るのを待っていると、先行者が引き返してきて、トラバース地点の前に立って待っているのが見えた。

膝を使って強引にちょっと上がり、雪のついた草つきは、アイゼンを蹴りこんで登る。今季、わかんて登ってばかりいたので、ふくらはぎが攣りそうになる。休み休み登って、ビレイ点につくと、左手に視界が開けた。ひと休みして、眺めが良いので、写真など撮る。



稜線に出ます

ロープを畳んで、歩き出す。また岩峰の前に来たところで、左へ。ほとんど道状になっているが、念のため、ロープを出してもらう。ちょうどロープいっぱいになったところで、歩き出す。イヤなところがちょっとある程度だった。

また歩き同様のように登り、核心の岩場、大天狗でロープを出してビレイ。右へ雪道を歩き、岩にとりつくときさらに右へ行き、テラスで終了。しかし、右へ行きつつ上へ登るのが正解だったらしい。テラスの左側に、立派な終了点のチェーンがかかっていた。

あとは歩くだけ。行動食をとってまたお休み。岩場の向こう側には、後続のパーティーが休んでいた。雲ひとつない快晴。登り詰めて稜線に出ると赤岳へ向かう登山道を分け、キレットの下り。雪はまったくなく、目印となるペンキがよく目立つ。風があつたらつらいだろうと思いながら下りきり、鞍部でまた休む。山を遠くに見ながら、登攀具をしまう。日当たりが良くて暑い。

登山道を登り返して、ツルネ東稜の下り口にたどり着くと、権現岳と出合小屋の立派な道標があつて驚いた。昔はなかったのに。

ツルネ東稜の下りは、樹林帯で、緩んだ雪に足をすくわれながら、一気に下りる。お昼過ぎに出合小屋に着き、アイゼンを外すと、再び美し森に向かった。前回、暗い中歩いたことを思い出しながら。今回、運よく登れて、この好条件、これ以上は望めないのも、もう二度と来ない気がした。

今シーズンの山スキー（前編）

北原 浩平



上越の山々を背景に(上越・神楽峰中尾根)

その1:上越・神楽峰中尾根

2013年1月5日(土)

三俣スキー場～ゲレンデtop～神楽峰稜線～中尾根の頭
～中尾根～和田小屋

メンバー:北原、佐藤、他1名

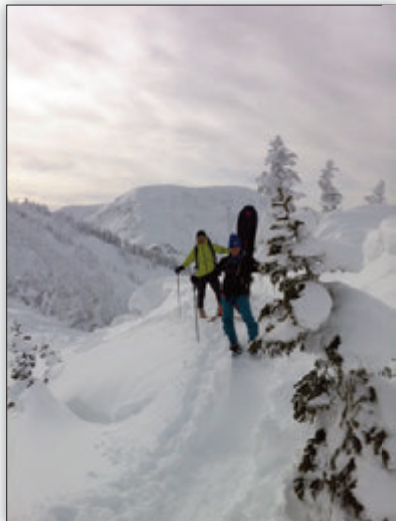
9時30分、スキー場を出発しゴンドラ、リフト

を乗り継ぎ、10時30分にゲレンデトップを出発する。新雪がふんだんにあり、しかも快晴で、自然に笑みがこぼれる。スノーシューの三浦君は新雪に埋まるのでやや遅れ気味。

途中、NHK番組があり、釈由紀子さんがガイドとシールで登っているところを撮影している。追い越す際に挨拶したのでワンカットぐらい写っているかも。

稜線からは妙高、白馬方面が望める。何度も行っている神楽峰を見送り、中尾根の頭を目指す。12時30分に到着、ランチ休憩して13時に滑降開始。すでにシュプールは着いているが、50cmほどのふかふかのパウダー。とても幸せ、30分で和田小屋に到着し、しばしゲレンデで遊ぶ。

後日談:釈さんはあの後、転倒して骨折し番組はカットされてしまったとのこと。残念。



苗場山 (上越・神楽峰中尾根)



中尾根 (上越・神楽峰中尾根)

その2: 中信・根子岳

2013年1月19日(土)

メンバー: 初鹿、市瀬、山里、佐藤

前日に家族が高熱を出したため、ドタキャン。皆さん楽しく滑ってきたのでしょうか。

その3: 北信・佐渡山

2013年2月2日(土)

戸隠大橋～分岐～佐渡山(往復)

メンバー: 北原、他3名

午前7時に戸隠大橋に集合するも、小雨混じりの天気ではばし待機。先行は1台1名。しばらくすると日本山岳会アルパインスキーの皆さんが10名ほど集まり出発していく、黒姫山とのこと。東から日が差し込み始めたので、午前8時45分に出発、佐渡山を目指す。黒姫山への分岐をすぎ、尾根に取り付く。気温が高く汗が噴き出るが、雨が止まず、ヤッケを脱げない。暑さに耐えながら、佐渡山山頂、11時15分。ガスで山は見えない。11時45分、滑降開始。雨に濡れた斜面を滑る。まあ降りてきただけみたいない感じ。12時15分に分岐ではばし休憩。12時45分には戸隠大橋に到着。雨やまない。

その4: 北信・黒姫山

2013年2月3日(日)

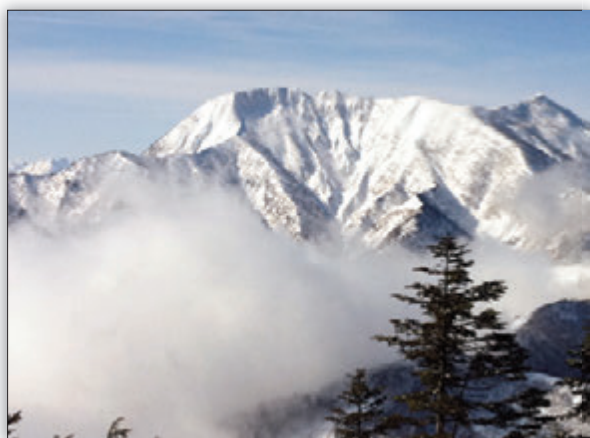
戸隠大橋～分岐～黒姫外輪山～山頂(往復)

メンバー: 北原、他3名

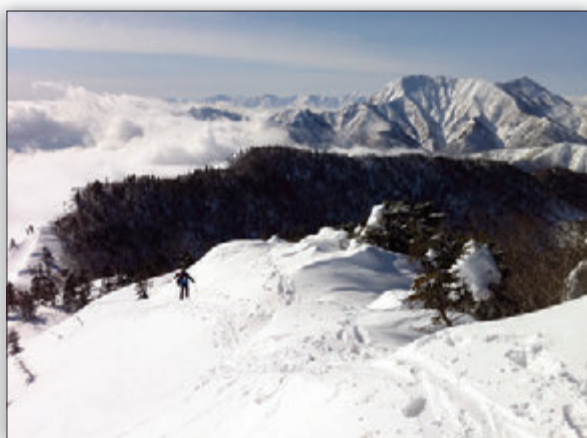
野尻湖畔で新雪1cm、朝日が差し込み今日は期待できるか？戸隠大橋に午前8時50分集合。すでに駐車場にははいれない。パウダーキャンプの皆さんも出発した模様で、マチュオ？さんが今出発、高妻山方面とのこと。午前9時に我々も出発、雪面は晴れ昨日の雨で固く締まっている。分岐から黒姫山へ夏道を辿る。高度上げるほどに天気が良くなり、昨日予定していた乙妻山が美しい。今度行かないとね。12時には外輪山へ、せっかくなので、黒姫山山頂まで稜線を行く。妙高、火打、焼山そして北アが雲海のうえに見える。午後1時山頂。15分出発。スキーをはいたり、担いだりしな



黒姫の樹林帯



高妻と乙妻



山頂直下

がら、1998mのピークまで、午後1時45分に滑降開始。しばらく稜線を辿り、夏道の尾根の500m手前から斜面へ飛び込む。薄い新雪と固いバーンが交互に出てくるが、なかなか楽しく滑ることができる。1600mあたりで夏道の尾根に戻り忠実に下る。午後2時30分に分岐、しばし休憩。午後3時前に戸隠大橋に到着。帰路、戸隠蕎麦の大盛りを食らう。

【番外】 ハケ岳・天狗尾根(バリエーション)



ツルネ

2013年3月9日(土)・10日(日)

コースタイム：出合小屋bc3:30?～岩峰取付6:00?～9:30稜線9:45?～ツルネ11:15?～12:35bc13:20?～美しの森15:30

メンバー：小堀、佐藤、小田、北原

天狗尾根、制覇できて良かった。2年前に天候のため岩峰手前で撤退してから、ハケ岳を見るた



天狗尾根



大天狗1



大天狗2

びに思い出していた。核心部は最初の右へのトラバースで、小堀さんがダブルアックスでリードし、フォローしたが、シングルアックスでは厳しかった。凍ったルンゼの登攀に、アイスクライミングの技術が必要なことが、今ごろわかった。

その5:東北・安達太良山

2013年3月20日(祝)

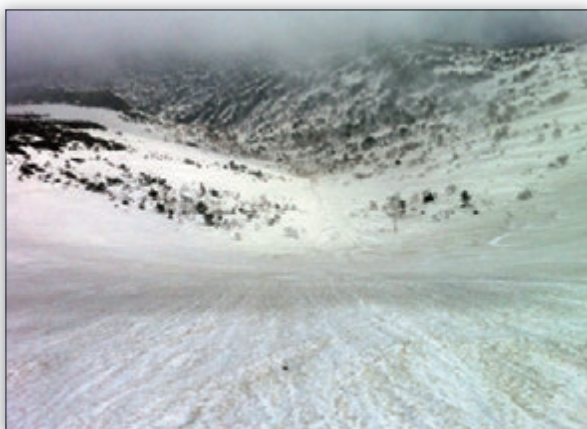
コースタイム:スキー場〜ゲレンデtop9:30〜10:40安達太良山頂11:20〜登り返し2回〜ゲレンデ〜スキー場13:50

メンバー:北原、他2名

bcボーダーの三浦君の誘いで日帰り安達太良山、その友人の齋藤君も参加。このところの高温でスキー場にもあまり雪がない。でもゴンドラtopには雪があって良かった。山頂付近はガスがかかり生憎の天気だが、滑降ポイントまで下るとガスがとれ、ツイテル。五葉松平上部の沢筋はとても快適な斜面で、2回登り返し3回滑降してしまった。下山後に入った岳温泉の陽日の郷の温泉は湯も風呂も最高。840円也。



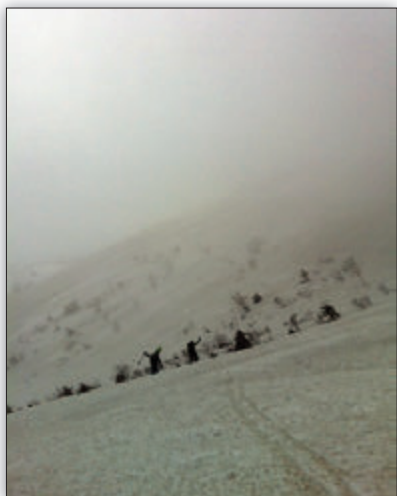
今回の二人



斜面



安達太良山



登り返し

なほみさんのいつまでやってんだ ク ライミング日記 もはや病み上がりではない (2)

水野 奈保美

冬から春な2月～3月。引き続きぱっとしない(いつもか)。

2年に渡るプラトーってことにしておこう、ってホントはもうずっと前からだよ！

と、いう進歩のないなほみさんをお楽しみ下さい。

2月 城ヶ崎嫌になって三ツ峠に逃避。

2/3 城ヶ崎：いつものオーシャン、日蓮

2/9～11 ハツ：阿弥陀西稜 with はつ

2/23 裏三ツ峠 with O 俣

2/24 十里木ぼる with ちょび&お師匠

3月 ちょこちょこ休日出勤があつて近場。

3/2 裏三ツ峠 with O 俣&うっちー

3/10 天王岩 with お師匠扱い

ちょっと山行ってみたりアイス行ってみたり相変わらず半端ななほみさんでございしますが、先週天王岩行つてやめときゃいいのにノーリー張ってもらってぐっちゃぐっちゃやってたら、腕が1回目で売り切れて、その後何を登っても全く登れなくなっていて、お師匠もびっくり。ひどいもんだ。これはしばらく通わないとダメだね…10年前から同じ事言ってるような気がするがまあいいか(芸風だからな)しかし、にゃんこお嬢様にはやられましたわ。お師匠と二人ですっかりにゃんこバカに。でもお

嬢様は、日中家にいるお師匠をお母さんだと思っているようで、私は「誰？あ、なんかよくわかんないけど夜と朝だけ居る人かしら？」扱い。ちょっとさみしい。

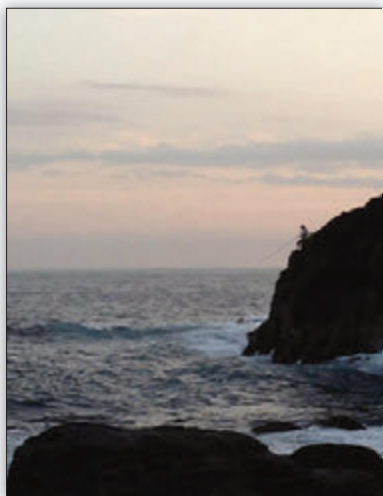
3月第4週 湯川、天王岩。

3月16日(土) 湯川の岩場

城ヶ崎はもう暑いと急遽湯川に連れて行かれる。この日は雲ひとつなく、日差しがとても暖かった。ただ時折吹く(誰かさんが行っている)ハヶ岳おろしの風はまだ冷たく、影に入るとまだまだ寒い。もちろん、この時期に来る人はなく岩場は貸切。オンシーズンには蜂やらブヨやらに悩まされるが、さすがに静かで平和で岩はパリパリ。とはいえいつも通りおしゃべりばかりで、登ったのはロープ張ってもらって

- ・デゲンナー
- ・コークスクリュー
- ・サイコキネシス

の3本で一す。(サザエさん風に言う) どうせ登れないだろうと思ってたサイコキネシスが落ちずに登れたので気が良い。城ヶ崎よりずっとフレンドリー。岩場の下地



日蓮崎の夕暮れ



裏三ツ峠 わたしにはこんなもんで十分



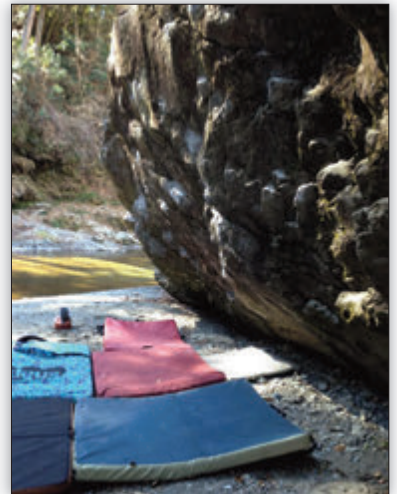
裏三ツ峠 なんか食べてるO俣氏



また裏三ツ峠



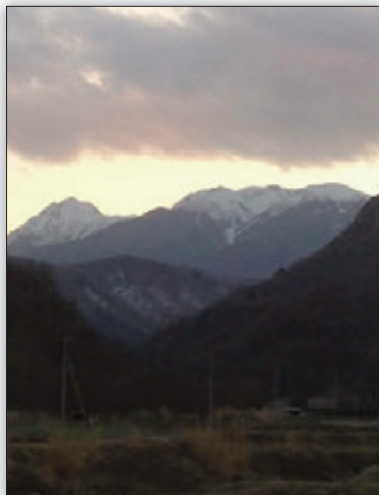
ちょびさんを連れて十里木ボル



ほかにも若者がいました



湯川



灯明の湯Pからみる八ヶ岳東面。



天王岩でガメラさんを盗撮写

にはちっさいふきのとうが芽をだして、うちひとにぎりも採ってくれた。帰宅後ネットで調べて、ふき味噌を作ってみる。おいしくできましたよ。

3月17日(日)

ゆっくり起きて天王岩。秋川街道が混んでいたのもあり、お昼くらい(いつも通り)。いつもの岩のテーブルに、ガメラさんがお客さんをひとり連れて来ていた。あら、珍しいデスね。ポケットマントルの終了点を下げた人(ex ロクスノ最新号)って誰なんですか?とさっそく聞いてみる。(思ったとおりの方だった)で、本日は

- ・涅槃の風邪
- ・蟬しぐれ
- ・しんきろう
- ・下の岩の一番右
- ・↑のいっこ隣
- ・カンテ状の右のいっこ右
- ・ノーリー

など、あんがいいっぱい登りましたよ。(お師匠効果)あ、まだテンダイのリードはしてないのでご安心ください。ノーリーの動きが少し解決したかもなので次回ノーテンで行けたら順次リードしますよ。

3月20日(祝) mm氏実家へ挨拶→みんなでY崎さん家にお見舞いと称しておしかけ、飲み・食い散らかして帰る。

3月22日(代休) ちょびさん&お師匠と散歩に行く

3月25日(代休) パーチに行く

……こんなかんじでした。もっとがんばりましょうね。今シーズンの目標とかねえの? えっとね あ そうだ今年こそヨセミテに行くからね! 登れなくてもとにかく、行く。(ヨーロッパまわりは挫折:泣)

山行一覽

2013年1月21日～3月18日

No.	山行日	山域	ルート	参加者	区分
3240	1月21日	東北	那須・茶臼岳	岡	撮影
3241	1月24日	東北	那須・茶臼岳	岡	撮影
3242	1月25日	日光	雲竜溪谷	岡	撮影
3243	1月27日	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
3244	1月27日	奥武蔵	名栗河又	西本・桜井	フリー
3245	1/26～1/27	八ヶ岳	高見石・白駒池	平・他1	雪山
3246	1月28日	甲信	甲斐駒ヶ岳・黒戸尾根(5合目まで)	小堀・佐藤	雪山
3247	1月28日	奥多摩	青梅丘陵	初鹿	トレラン
3248	1月31日	東北	那須・茶臼岳(大丸温泉～牛首)	岡	撮影
3249	2月1日	日光	雲竜溪谷	岡	撮影
3250	2/2～2/3	佐久	戸隠大橋～佐渡山／黒姫山	北原・他2名	山スキー
3251	2月4日	丹沢	シダング山	初鹿・市瀬・他3名	ハイク
3252	2月4日	奥多摩	越沢バットレス	桜井	岩トレ
3253	2月4日	上越	阿能川岳南東稜	佐藤・小田	雪山
3254	2月4日	伊豆	城ヶ崎	水野・他	フリー
3255	2/9～2/11	八ヶ岳	阿弥陀岳西稜	初鹿・水野	バリ
3256	2月11日	湯河原	幕岩	西本・他2	フリー
3257	2/10～2/11	日光	山王帽子山～太郎山	平・佐藤・小田・他2	雪山
3258	2月12日	伊豆	城ヶ崎	西本・他2	フリー
3259	2月12日	奥多摩	越沢バットレス	桜井	岩トレ
3260	2/16～2/17	奥秩父	大菩薩連嶺南部	平・他1	ハイク
3261	2月18日	奥多摩	氷川屏風岩	初鹿・桜井・佐藤・小田	岩トレ
3262	2/23～2/24	八ヶ岳	真教寺尾根	小堀・初鹿・平・佐藤・小田	雪洞
3263	2月24日	甲信	裏三ツ峠	水野・他1	アイス
3264	2月25日	奥多摩	十里木ボルダ	水野・他1	ボル
3265	3月3日	奥多摩	三頭山	北原	ハイク
3266	3月3日	甲信	裏三ツ峠	水野・他1	アイス
3267	3月3日	八ヶ岳	角木場	佐藤・他3	アイス
3268	3月4日	富士	太郎坊～富士双子山	北原・他	山スキー
3269	3月10日	奥多摩	越沢バットレス	西本・他1	岩トレ
3270	3/9～3/10	八ヶ岳	赤岳天狗尾根	小堀・北原・佐藤・小田	バリ
3271	3/9～3/10	上越	コマノカミの頭北尾根	初鹿・平	バリ
3272	3月11日	奥多摩	天王岩	水野・他1	フリー
3273	3月17日	西上州	古賀志山	西本・他3	フリー
3274	3月17日	佐久	湯川	水野・他2	フリー
3275	3/16～3/17	八ヶ岳	赤岳天狗尾根	平・他1	バリ
3276	3月18日	奥多摩	越沢バットレス	桜井・佐藤・小田	岩トレ
3277	3月18日	奥多摩	天王岩	水野・他	フリー

編集、後記。

アルパインの人の、年を取ったら選択肢。

一、山をやめる（体力がなくなったならば仕方がない）。

二、フリークライミングに力を入れる（これってフリーをなめてないか）。

三、這ってでも山に行く。

基本山好きだったら三つてのが普通だと思うのだが。山を止めたらやる
ことなくなっちゃうし…。まあ体力落とさないようにしないと。(H)

前号の締切から、わずか1か月。原稿が集まるか心配でしたが、予想以
上の豊作でした。原稿に書くような山行が1回もないなんて寂しいモ
ノ。みなさん、原稿書いてください。来月もよろしく。(T)

いつもながらギリギリで編集作業をしているので、が〜っとテキストを
流し込み、力仕事で終わらせたいのだが、写真と文章量の兼ね合いで、
どうしても行間ツメや段落分けをしないとならないんで、読むんですケ
ど、「宿題」だとか「制覇」だとかの表現がちょっと気になった。フリ
ークライマーがルートを「何撃」したとか「何便」で「落とす」とか、
自分には力不足だったり、芸風がちょっと違うルートに取り付いてしま
ったので、「封印」するとか言う、のに似ていて、最近とても違和感を感
じている（重複？）んですけど？真面目なのはいいコトなんだけど（私
にできない）、教科書的にコレの次はコレ、みたいなのは、私も通った道
だからわかるんだけど、この故意に殺伐とした表現をする気質って、最
近なんか嫌だなんて思う。昔、バカな飲み方をして酔いつぶれることを
「撃沈」とか言ってはしゃいでいる若造に、年寄りがその言葉の意味をコ
ンコンと説教していたのを思い出す。（おっと、こんなのはクローワール
に書いたほうが良かったかな？めずらしく真面目風な：M野）



Primula

発行所: 東京都八王子市散田町3-38-6B primula.ac@gmail.com <http://primula.mizunodesign.com>